



卓越した築城技術の世界へ

シャンボール城は、ルネサンス期の最高傑作の一つに数えられます。フランス国王フランソワ1世の栄光を讃えて1519年に建設が始まったこの城は、何よりも当時有数のフランス人およびイタリア人建築家や職人の共同作業によって生み出された建築的偉業です。シャンボール城は、邸宅や官庁としての城館や狩猟の館を超えて、理想と調和に満ちた、建築のユートピアを体現しているのです。

この城は、数奇な歴史を歩んできたといえます。16世紀から17世紀にかけて、フランソワ1世、次いでアンリ2世、そしてルイ14世が廷臣たちを従えてここを訪れ、狩猟を楽しんだり、賓客を招いたり、築城工事の進捗を見守ったりしました。18世紀には、王室の親族が使用することもありました。その後、ブルボン家最後の王位継承候補者であるシャンボール伯爵アンリの私有地となり、100年後の1930年に、国によって買い取られました。シャンボール城歴代所有者の誰もが、フランソワ1世の意志とレオナルド・ダ・ヴィンチの構想が随所に伺えるこのフランス・ルネサンスの至宝を守り続けたいと願いました。

シャンボール城の見学

シャンボール城では、特に決まった見学コースはありません。迷っても、中央の見事な二重螺旋階段に戻ることができるという構想が、この城館の趣向となっているからです。城館占有の歴史を辿るには、各時代の王の居室その他の部屋をご覧ください。最後に、テラスから庭園と領地の素晴らしい眺めをお楽しみください。

礼拝堂の翼棟	王の翼棟	156mの大きなファサード
主塔	＊	部屋数
中庭		400室以上
城郭		77の階段
		282の暖炉
		高さ56m
		500年の歴史

地上階の見学

2 視聴覚室「ジャン＝マルタン・ドメジル」

ここでは、城の見学における重要なイントロダクションとなる、2つの映像が連続上映されています。
シャンボール、夢の建築：シャンボール城の歴史と建築に関する2部構成の映像（◎18分）
失われた1519年の計画：シャンボール城の誕生に関する映像（◎7分）

1 二重螺旋階段と主塔の構造

レオナルド・ダ・ヴィンチからの影響がうかがえる大階段は、それ自体が一つのモニュメントです。主塔の中央に位置し、2つの階段が、窓のある中央の柱を重なり合いながら取り囲むように配置されています。複数で見学されている方は、二手に分かれて階段を登ってみてください！お互いの視線を追いかけながら登っていても…決してすれ違うことはありません！大階段を囲む広間は、全体がギリシャ十字を形作っています。これらの広間は、主塔の四隅に位置するかつての居室に通じています。ここにもまた、シャンボール城の重要な建築的革新を見ることができます。それは、イタリア・ルネサンスの教会建築に使われていた、ギリシャ十字型の中心部を置く構造を用いていることです。

3 6 7 8 応接間

地上階には、「ブルボン家の間」(3)、「偉人の間」(6)、「狩りの間」(7)と呼ばれる3つの大きな応接間があります。ここでは、狩りや、シャンボール城の歴史的人物、18～19世紀の王室を題材とする絵画や彫刻を鑑賞することができます。

4 18世紀の厨房

主塔の西棟に位置する部屋は、1782年から厨房として使用されました。ここでは、かつての配膳室、菓子調理室、食料貯蔵室、果物貯蔵室を見学しながら、18世紀末のシャンボール城主、ポリニャック伯爵の厨房の雰囲気を楽しむことができます。煙道やパン焼き窯、当時使われていた様々な道具を見ることができる大厨房もぜひご覧ください。

9 10 四輪馬車の展示室と石碑保管室

王の翼棟の地上階には、ベルリン型馬車3台、2人乗りの四輪箱型馬車1台、幌付き小型四輪馬車1台からなる素晴らしい馬車のコレクションが展示されています(9)。1871年、シャンボール伯爵が国王としてパリに行くことを想定して注文したもので、未使用のままのため、極めて良好な状態で保存されています。この場所のその他の見どころは、城の灯籠塔の破片など、城の古い装飾品が保存されている石碑保管室(10)です。



★ 時間にあまり余裕のない方(1時間ほど)には星印の場所の見学をお勧めします!

視聴覚室にて、城館の歴史と建築に関する映像を上映しております。ぜひ見学の初めにご覧ください。



★ 時間にあまり余裕のない方(1時間ほど)には星印の場所の見学をお勧めします!

新しく模様替えした王に同行する宮廷人の様子とフランソワ1世の私室をご覧ください。



2階の見学

1 2 フランソワ1世の住棟 (16世紀)

1539～1545年に建設された王の住棟は、翼棟の2階にあります。ここでは、80㎡の広い寝室(1)、衣装部屋、書斎、フランソワ1世の紋章が刻まれた円天井で装飾された見事な礼拝室(2)があります。また、この棟には「王の間」と呼ばれるかつての大広間もあります。2019年、王の住棟の一部で大規模な改装を行いました。壁や床に敷かれた革のむしろ、壁から垂れる壁掛けや貴重なタペストリー、旅行用の家具や骨董品など、王とその宮廷人が城に滞在していた時の様子の想像を掻き立てます。

3 王妃の寝室 (17世紀)

この部屋は、王の翼棟が建設される前に、フランソワ1世の第一寝室となっていたと推測される部屋で、現在は17世紀当時の部屋の内装となっています。この部屋を、ルイ14世の滞在時に、マリー・テレーズ・ドートリッシュユ、その後、王太子妃(王位継承者、王太子の妻)が使用しました。

4 バレードの続き間 (17～18世紀)

1680年頃に改装されたルイ14世のバレードの続き間は、大きなファサードの中央に位置します。太陽王にとって象徴となる場所です! この続き間の建設のために、主塔の設計が変更されました。中央の階段に沿う北西の大広間を閉鎖し、衛兵の間、2つの控えの間、バレードの間の4つの部屋が作られました。この続き間の豪華な装飾と調度品は、後の占領期を彷彿とさせます。ルイ15世は、義父スタニスワフ・レシチンスキと、その後、ド・サックス元帥に数年間シャンボール城を使用することを許可しました。この2人も、かつてのバレードの続き間に滞在しました。現在は、18世紀半ばの記述に近い部屋の状態が展示されています。

6 礼拝室

250㎡の礼拝室は、城内で最も広い部屋です。塔と西翼棟の長方形の部分と完全に一体化しているため、外からはその存在に気がつくことはありません。フランソワ1世の時代に建設が始まりましたが、完成したのは、1世紀半後のルイ14世の時代です。その彫刻装飾から建設の段階を見とることができます。壁の根元から円天井にかけて、フランソワ1世(♀と火とかけ)、その息子アンリ2世(逆さ三日月)、そして太陽王(♂と太陽)の紋章が彫られています。見つけれられますか?



5 7 18世紀の続き間

主塔の西側と南側は、18世紀風の家具や装飾が施された続き間になっていて、「城主の寝室」(5)、「月桂樹の寝室」(7a)、「コンティ大妃の寝室」(7b)で構成されています。ルネサンス期やグラン・シエクル(大いなる世紀)期と比べ、部屋の配置が大きく変更されており、木製の仕切りや漆喰を塗った布地の天井により部屋が縮小されています。床は素焼きから寄せ木張りに変わり、壁は壁紙や布、板張りで覆われています。18世紀末に行われたこれらの改装によって、暖房が効きやすくなるなど、シャンボール城に長期滞在する賓客も、より快適に過ごせるようになりました!

8 ルイ14世の劇場

17世紀、シャンボール城に滞在した太陽王とその宮廷人たちの夜を彩ったのは、余興や喜劇でした。そのため、主塔1階の大階段を挟んだ反対側に、小さな劇場が設けられました。モリエールはここで作品の発表を行い、コメディ＝バレエの初期の作品である「ブルソニャック氏」(1669年)と「ブルジョワ紳士」(1670年)を上演しました。ルイ14世が喜劇を楽しんだ同じ場所に、昔の劇場の面影を再現しています。この魅力的な演出は、今にも新しい上演の幕が開くような印象を与えます。

9 シャンボール伯爵の美術館

この「美術館」を構成する7つ部屋では、19世紀、フランス王位継承に失敗したシャンボール伯爵の驚くべき運命を展示しています。アンリ・ド・ブルボン、その出生時に始まった国からの寄付金によって城とその敷地の所有者となりましたが、人生の大半を亡命先で過ごしました。それでも彼は、シャンボール城の修復、維持、改良に財産を費やし、1821年、シャンボール城は一般に公開されるようになりました。この場所に集められた何百もの品々は、動乱の時代の最中でも、歴史的遺産の保護に尽力した大公とこの歴史的建造物の物語を語っています。



便利な情報



通常公開されている場所も、予告なしに閉鎖されることがあります。見学の際は入り口またはシャンボール城の公式サイトでご参照いただけます。建築物やコレクションを破損した場合、訴追および没収の対象となる場合があります。

アクセシビリティ

お身体の不自由な方のための設備を備えたスペース (マップ参照) :
受付/チケット売り場/主塔地上階とその部屋
視聴覚室/四輪馬車の展示室/カフェ/化粧室/ブティック
受付で車いすの貸し出しを行っています (数量には限りがございます。予めご了承ください)。
介助犬と建物の中に入る場合は、証明書をご提示ください。
見学ツール「HistoPad」の専用版にて、上層階の広間の解説をお聞きいただけます。

聴覚障害者向けデジタル情報ツール「HistoPad」(LSF(フランス手話)の解説を含む)
視聴覚室: 5か国語の字幕付き映像 (フランス語、英語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語)。

視覚障害者向けデジタル情報ツール「HistoPad」(フランス語音声解説版)
ブルボン家の間で城の模型に触れることができます。
主塔2階のルネサンスの棟で円天井の鏡型に触れることができます。

受付でベビーカーの貸し出しを行っています (数量には限りがございます。予めご了承ください)。

城館の見学にご利用ください

ガイド付き見学 (1時間30分)・週末・祝日
を利用したじっくり見学 (3時間)・休日・祝日
を利用した楽しい見学 (1時間30分)・短期
休暇を利用したご家族向けワークショップ・
城館や庭園で楽しむサラマンダー「カサ
ンドル」の謎解き手帳・見学用タブレット
HistoPad



・厩舎の馬術ショー (シーズン中のみ)・
自転車、ボート、電気自動車のレンタル
・ネイチャーラリー (スマートフォンにダ
ウンロードしてご利用ください)・4WD車
による狩猟鳥獣保護地区ツアー・短期
休暇を利用したご家族向けワークショッ
プ・シャンボール城の野菜畑のガイド付
き見学・運河周辺の自由散策 (4km)
・グランド・プロムナード:
全長20kmの小道を歩きながら、シャン
ボール領地の豊かな自然やそこに生息
するさまざまな動植物との出会いをお
楽しみください。散策コースの音声ガイ
ドをダウンロードしていただけます。

3階の見学

1 2 ヴォールト天井の間とド・サクス元帥の劇場

ドンジョンと呼ばれる主塔の3階にある、大階段を中心にギリシ
ヤ十字状に配置された4つの部屋では、見事な彫刻を施した格
間天井をご覧ください。古い凱旋門や教会の天井のよう
に、全体にフランソワ1世の紋章の装飾が施されています。冠を頂
くサラマンダー (火トカゲ) と「F」の文字が交互に並び、シャンボ
ール築城王を讃えています。ヴォールト天井に、ただ一つ謎めい
た上下逆さまの「F」の文字があります。見つけられますか?
ヒント: モーリス・ド・サクスのために劇場に作り変えられた、北
西のヴォールト天井の間にあります (現在も面影が残ります) (2)。



3 16世紀から20世紀までのシャンボール城での狩猟

南側には、シャンボール城の狩猟の伝統をテーマにした常設展示がありま
す。フランス歴代国王が好んだ狩猟の魅力はもちろん、領地がどのように管理されてきた
かを、数多くの展示品を通して理解することができます。 フランソワ王の狩猟の貴
重な壁掛けや、19世紀に遡る、馬が引く狩猟船もどうぞお見逃しなく。 最初の間に
は、16世紀から18世紀にかけてシャンボール城の庭でよく見かけられた動物の剥
製が展示されています。

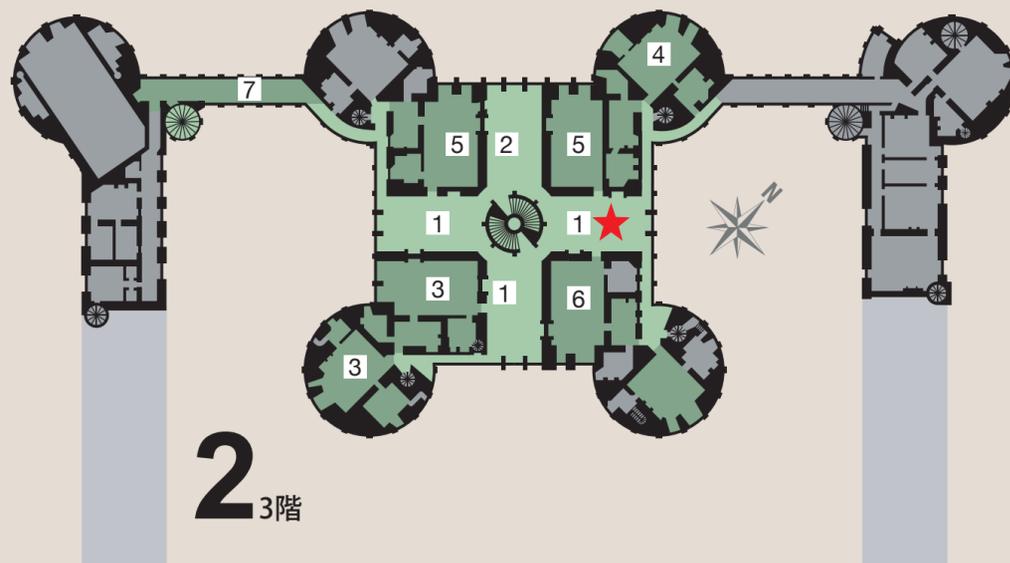
4 子供たちの部屋

シャンボール城では、お子さまとご家族のための特別スペースを設けていま
す。15台ほどのデジタル機器を駆使した、感覚的で楽しい体験を通じて、フランソワ1
世と城館の歴史や建築についての知識を深めることができます。3歳~5歳の小さ
なお子さまには、早期学習活動や読書コーナーを含め、好奇心や探求心を培う
スペースをご用意しています。

5 6 7 特別展示室 - ルネサンスの部屋 - 狩りの記念品

の間

フロアの北側と西側 (5) では、文化プログラムに応じて現代美術作品または文化遺
産の展示を行っています。また、一切の調度品がない東側の一角 (6) では、ルネサ
ンス期の廷臣の住まいを構成するさまざまな部屋をご覧ください。
最後に、礼拝堂の翼棟にある「狩りの記念品の間」(7) と呼ばれる回廊へお越しく
ださい。マリオン・ジュスター (20世紀) コレクションに収められたさまざまな鹿の頭を
ご覧ください。



2 3階

★ 時間にあまり余裕のない方 (1時間
ほど) には星印の場所の見学をお
勧めします!

フランソワ1世の紋章が刻まれた壮麗な
ヴォールト天井をご覧ください。その周
辺の部屋では、現代美術作品や文化遺
産の展示を行っています。



1 ヴォールト天井の間 2 劇場の間 4 子供たちの部屋 7 狩りの記念品の間

3 シャンボール城での狩猟

テラスの見学

1 2 城のテラス

大階段を登り切ると主塔の最上階のテラス (1) に出ます。そこから、領地や村、周囲
の庭園を一望することができます。上から見下ろすその家並みや通りは、まるで天
空の小都市にやってきたかのような、壮大な光景です。
塔や家々の屋根の上には、煙突や天窓、小塔や明かり取りが何えます。スレート
のさまざまな彫刻や幾何学形状の装飾が施されたこれらの建物が、ゴシック建築に
着想を得たシャンボール城独特のシルエットを作り出しています。その中央に、フ
ルール・ド・リスと呼ばれる百合の紋章を冠した頂塔 (2) が、空へ向かって高くそび
えます。王国の中心である国王を象徴しているのかもしれない。

3 1939~1945年のシャンボール城: わずかでも、 美しきものを救い出す

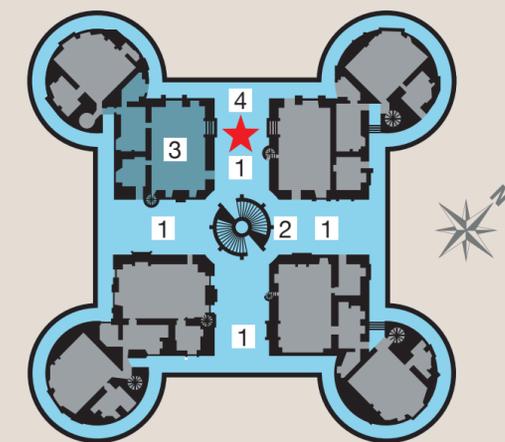
1939年、国立博物館の所蔵品数千点が、戦争の危機から救うために輸送船団で
フランス中西部の11の城と修道院に運ばれました。 こうして、第二次世界大戦中、
閉鎖されていたシャンボール城に、ルーヴル美術館やヴェルサイユ宮殿をはじめ
とする国や個人が所蔵していた数多くの傑作が運び込まれ、フランス最大の
保管所となりました。 この常設展では、工夫を凝らした展示やデジタルメディア
(スライド映像、ビデオ上映など) を通じて、シャンボール城が人類の貴重な遺産
の保護に果たした重要な役割に注目し、これに貢献した人々に敬意を表します。

4 フランス式庭園の眺め

テラスからは、シャンボール城のフランス式庭園の素晴らしい眺めをお楽しみい
たいただけます。この庭園は、1970年までいくつかの遺跡が残されていたが、16年に
わたる調査研究に基づいた大規模な工事により、2016~2017年に修復され、18世
紀当時の庭園がそのまま、忠実に再現されています。 青々とした芝生から、刈込み
されたイチイや花が植えられた花壇、小道、並木、五の目型の植込みまで、すべて
が規則正しく幾何学状に配置され、城と同じように完璧なシンメトリーを描いてい
ます。
テラスからじっくりとご鑑賞下さい。その後、地上階にお戻りください。 庭園の台地
へは自由にアクセスでき、小道の散策をお楽しみいただけます。



View of the Royal Palace of Chambord, France, 16th century. View of the Chateau Royal de Chambord, France, 16th century.



3 テラス

テラスからは、華やかなゴシック
様式とイタリア・ルネサンス様式
が不思議に調和した屋根の光
景と、シャンボール城の領地の
壮大なパノラマをお楽しみい
たいただけます。

★ 時間にあまり余裕のない方 (1時間
ほど) には星印の場所の見学をお
勧めします!



1 テラス 2 頂塔

3 1939~1945年のシャンボール城 4 フランス式庭園

シャンボール城の 歴史年表

1515年 フランソワ1世がフランス王に即位。
1519年 レオナルド・ダ・ヴィンチ死去。シャンボール城築城工事開始。
1539年 主塔が完成。
フランソワ1世が神聖ローマ皇帝カール5世をシャンボール城に招く。
1545年 フランソワ1世最後のシャンボール城滞在。
1547年 フランソワ1世死去。国王に即位したアンリ2世が礼拝堂の翼棟の建造を続行。
1556年 工事中の中断。礼拝堂の翼棟と城郭は未完成。
1625年 ルイ13世の弟、オルレアン公ガストンが親王采地 (フランス王が長子以外の王子や王弟に封土として与えた王領の一部) としてシャンボール城を受領。
1641~1642年 城の第一回修復工事。
1660年 オルレアン公ガストン死去。シャンボール城は国王に回収される。
ルイ14世がシャンボール庭園の造成を完了。
1684~1686年 城の完工と周辺地域の整備工事。
ルイ14世最後のシャンボール城滞在。
1725~1733年 ルイ15世の義父スタンワフ1世レチチニスキがシャンボール城に滞在。
フランス式庭園の植栽。
1745年 ルイ15世がモーリス・ド・サクス元帥にシャンボール城の自由使用権を与える。

1748~1750年 元帥が騎兵連帯と共に城に滞在。ここで死去。
1782~1789年 庭園と城は、王立種馬牧場を管理するポリニャック侯爵に委託。
1792年 フランス革命後、城館の調度品が競売にかけられる。
1809年 ナポレオン・ボナパルトがヴァグラム大公ルイ=アレクサンドル・ベルティエ元帥にシャンボール城を与える。
1821年 領地は、売りに出された後ブルボン家最後の王位継承候補であるボルドー公アンリに与えられた。
城館が一般に公開。
1840年 城がフランスの歴史的文化財の最初のリストに記載。
1871年 シャンボール伯となったアンリ・ド・ブルボンの最初で最後の滞在。
1883年 ボルドー公アンリ死去。甥にあたるブルボン=パルム家の王子たちがこの領土を相続。
1930年 シャンボールの領地を国が買い取る。
1939~1945年 フランスが所蔵する数千点の美術品を場内に保管。
1981年 城がユネスコの世界遺産に登録。
1997年 庭園がフランスの歴史的文化財に指定。
2019年 シャンボール城築城500年。



見学のご案内 シャンボール城

